

# Back Number

本論文は

## 世界経済評論 2023 年 5/6 月号

(2023 年 5 月発行)

掲載の記事です

2023年5月15日発行(毎月(最終日)発行)  
150頁・送料・送料720円  
世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤  
世界経済評論 5・6月号  
2023 Vol.67 No.3  
World Economic Review



### 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%  
送料無料  
OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読

0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## インド太平洋戦略 ： 大国間競争の地政学

亜細亜大学アジア研究所特別研究員 石川 幸一



[編著者]

ブレンドン・J・キャノン (Brendon J. Cannon)

ハリファ大学 (UAE) 助教授

墓田 桂 (はかた けい)

成蹊大学教授

[発行] 中央公論新社, 2022年9月

[判型] 四六判, 472ページ

[定価] 本体 2,800円+税

2016年に故安倍晋三首相がケニアで「自由で開かれたインド太平洋構想 (FOIP)」を発表し、その後米国、豪州、インド、ASEANが相次いでインド太平洋構想を発表した。2020年から、フランスやドイツなど欧州主要国もインド太平洋戦略を発表し、世界の主要国がインド太平洋への関与を明らかにしている。

その理由は、経済面ではインド太平洋地域が世界経済の中心となりつつあり、世界のエネルギーの3分の2が輸送される最も重要なシーレーンが通っていることだ。安全保障面では海のシルクロードといわれる「一路」構想により中国が経済的影響力を強め、真珠の首飾りといわれる海洋進出を進めているからである。

インド太平洋戦略は中国の台頭と脅威に対する地政学的な対応戦略である。本書はインド太平洋戦略を大国間競争の地政学という視点でとらえ、多様な実態を包括的に論じている。

本書は4部構成である。第I部「地政学的文脈」の第1章「インド太平洋の誕生」で「インド太平洋の概観を説明し、第2章「地政学が導く大戦略」で地政学の理論を通じてインド太平洋の戦略的景観を分析している。第II部「基軸としての日米豪印」では、第3章「日本」、第4章「アメリカ」、第5章「オーストラリア」、第6章「インド」でQuadを形成しインド太平洋戦略の中核となる4か国のインド太平洋戦略を分析している。第III部「震源としての東アジア—中国の覇権主義とその余波」では、第7章「中国」で米国が最大の競争相手と位置付ける中国の外交政策の転換を考察し、第8章「ASEAN」では、米中対立の狭間でASEANがいかに対処しているかを論じている。

第IV部「競争の最前線—現れる影響力とパワー」では、第9章「二つの大洋の小島嶼国」は中国が接近しているインド太平洋の小島嶼国の現状を分析し、第10章「EU」はインド太平洋へのアプローチを開始したEUの独立した外交政策の追求を考察している。第11章「湾岸諸国」はペルシャ湾岸のアラブ諸国の米中対立から生まれた地政学的現実への対応を、第12章「東アフリカ」は東アフリカ諸国での中国の影響力とパワーの推移を分析している。日本語版のために書かれた補章「大国間競争の地政学」は2022年5月までの時期を中心に主要国の動向と戦略的競争を考察している。

本書には、遺稿となってしまった安倍晋三元総理の日本語版へのメッセージが掲載されている。また、インド太平洋戦略のルーツとなった安倍元総理の2007年のインド国会での歴史的演説「二つの海の交わり」が収められている点でも意義深い。日本にとっても極めて重要なインド太平洋戦略を理解するための必読書として本書を強く推奨したい。

(いしかわ こういち)